
お金の神様に可愛がられる 女性経営者になる方法

私が師匠に直接教えてもらった「宇宙の法則」



有限会社スタイルプロデュース 門馬俊光

- トイレ掃除を楽しんですると何故かお金に困らなくなる4
- お金に仲間を連れてあの人のところに戻りたいと思ってもらう方法。5
- 「ついでる」と考えている人は一生お金に困らないらしい6
- 1人の大金持ちから学んだお金持ちになる秘訣がある7
- その人の金運は食生活によって決まる8
- ノルマをなくしたほうがずっとお店は儲かる9
- 儲かっているお店、儲かっている人にはある共通項がある10
- お金は人の役に立つように使うと4倍以上になって返ってくる12
- お釈迦様の托鉢のお話13
- 幸せは「もの」ではなく、幸せと思う「心」が決める14
- 喜ばれるために使われることそれがお金の役割15
- 正しい経営 より楽しい経営16
- 働くとは、はた（傍）を楽にすること18
- 謙虚とは控えめなことではなく、おかげさまと感謝できること19
- い・ど・お・の法則20
- まとめ21

ピンチはチャンス

- 失敗から学ぶ
- 投げかけたものが返ってくる
- そうじ、笑い、感謝

私が今まで、心の師匠に直接教えていただいたこと、本で教えていただいたこと
お金の神様に可愛がられる方法を、まとめてみました。



● トイレ掃除を楽しんですると何故かお金に困らなくなる

世のため人のために喜ばれる存在として生きている人にはどうやら本当に困った時に
お金が湧いてくることあるようです

お金は喜んでもらうために使うこと。そうするとお金がどんどん入ってくるようになって
いるようです。

トイレ掃除=あまりやりたくないこと

そのトイレ掃除を楽しんでやること、つまり仕事を楽しんでやること=お金がどんどん入っ
てくる

仕事を嫌々やるのではなく、仕事を楽しんでやることでお金がたくさん入ってくるとい
うことのようにです。

ちなみにトイレの神様のことを烏芻沙摩明王（うすさまみょうおう）といいます

その烏芻沙摩明王（うすさまみょうおう）は、お金や財運の神様です。

トイレをきれいに大切にするという事は、そのトイレの神様を大切にすることで、
お金や財運がどんどん入ってくるというのは昔からの言い伝えのようです

**どんな仕事でも、仕事を楽しんでやること。これがお金がたくさん入ってくる宇宙の法
則のようです。**



● お金に仲間を連れてあの人のところに帰りたいたいと思ってもらう方法。

お金を使うときにお金に向かって、「今度帰って来る時は仲間をたくさん連れて帰って来るんだよ」と言い聞かせるといいそうです。

お金に限らず、ものや道具にも意識があるようです。

そう考えると

- ・ お金に温かい言葉をかけてくれる人
- ・ お金なんか汚いものだと思っている人

どちらのところに金は戻りたいでしょうか？

もちろん金を大切にしてくれる人ですね。

このように潜在意識の中で金を大切にする人、金が好きな人の所には、ドンドン金が流れてきて

金の奴隷になっている人、金を恨んでいる人、金を汚いと思っている人、

そういうところには金がなかなか流れていかないようです。

あなたは金に対してどんな意識を持っていますか？

金は大切な友達のような存在。そんなふうにと考えると金に対して優しくなれるのではないのでしょうか？

金に対して優しくなればきっと金もあなたに対して優しくしてくれるでしょう。



- 「ついでる」と考えている人は一生お金に困らないらしい

銀座まるかんの創業者斉藤ひとりさんや松下電器の松下幸之助さん2人の経営者に共通していることがあるそうです。

2人はともに幸せの本質として不幸は無いという意味合いのことを言っています。

いかなる状況でさえ、「ついでる」「恵まれている」と捉えていたようです。

お金に執着があったわけではないけれど、「ついでる」と感謝した結果として、標準的な人よりも裕福になっていたわけです

物事を否定的に捉えるより、物事を肯定的に捉えた方がお金の神様に好かれるようです。



● 1人の大金持ちから学んだお金持ちになる秘訣がある

今たくさんお金を持っている人、いわゆるお金持ちの人は宇宙に向かって投げかけたサービスの総量が膨大で、特に若い時に宇宙に向かってすごいサービスを膨大に投げかけている」らしい。

お金持ちになった2,000人の中で、

「お給料がこのぐらいだからこの給料分だけ働けばいい」とか、

「どうしてこんなに働いているのに給料も安いのだろう」と

文句を言っていた人はほとんどいないそうです

お金持ちになった人は、もらっている給料の何倍も働いて宇宙に向かってたくさんの預金があるものすごく多かった。

嫌々働いている人は1人もいなかったそうです。

給料の何倍も働いている人は、投げかけたサービスが膨大な預金となって宇宙に積み立てられていて、その膨大な預金がやがて大きな報酬となって自分に降り注いでくるようなのです。

つまり、

仕事において不平不満や愚痴、泣き言、悪口、文句を言いながら仕事をしている人はお金がなかなか入ってこないということで、

自分が楽しくて面白くて幸せだと思えることや、一生懸命やれると思えるものを仕事にしている人はお金も人もどんどん集まってくるということのようです。

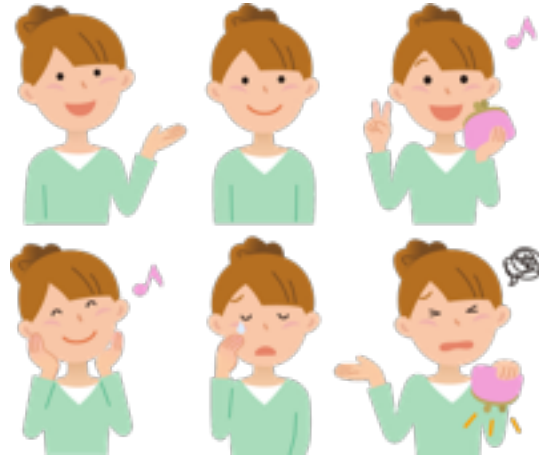
大切な事は、自分の投げかけたものに対して、お返しは求めない。ということのようです。

投げかけた総量について、これだけのものを投げかけたのだから、これだけのものを返してくれ。

と言うと、逆に返ってこないようです。

ただ、ひたすら投げかけるだけ、をしたほうがいいみたいです。

ビジネスにおいても、ギブアンドテイクという考え方よりは、ギブアンドギブの方がよりお金の流れてくるみたいです。



● その人の金運は食生活によって決まる

江戸時代に水野南北という日本一の顔相家と言われた人がいたそうです

水野南北が顔相学を勉強した結果として次のようなことに気がついたそうです。

相当な人相が貧相である、家相が悪い、印相、顔相が悪い、手相も悪い、そういう人であっても非常に幸運な人。

逆に

人相も家相、印相、手相も良いのに、どんどん落ち込んでいくな人がいる。

つまり人相、手相、家相、印相が絶対ではなく、例外が必ずある。その例外というのは入ってきた金額によって食べ物を変える人はダメになる。と言う事だそうです

お金が入ってくると上等な食事、豪華な食事をしていると、運が落ちていくそうです。

逆に貧相であっても、生活態度や食べるものが変わらない人は運気が上がっていくそうです。



● ノルマをなくしたほうがずっとお店は儲かる

サロンオーナーさん達の多くは、スタッフさん達に、「お客様は神様です。お客さまに笑顔向けなさい」と言ってお客さまに喜ばれることばかり考えていますけれど、

自分の一番身近にいるスタッフさんから喜ばれる存在になるのが愛される経営の第一歩です。

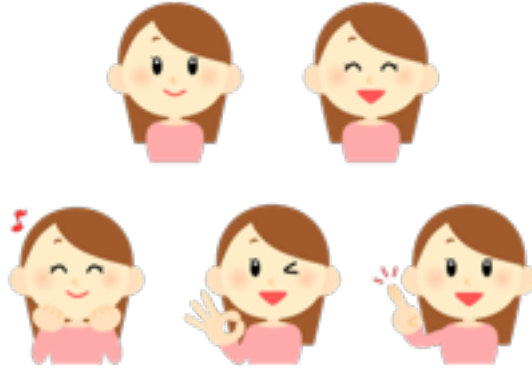
スタッフさん達に、大きなノルマ(達成目標)を課してプレッシャーをかけておきながら、その向こうのお客さまに笑顔向けなさいと言うのは無理な話です。

だから、

経営者側での一方的なノルマは定めないほうがいい。

一方的なノルマを課せられても人がやる気になりません。

スタッフさん達がこのお店にいたら、とても良い思いができるという状態になったらお店が困った時でもスタッフさん達が一生懸命働いてくるのではないのでしょうか。



- 儲かっているお店、儲かっている人にはある共通項がある

例えば中華料理店に、4人のお客さまが順番に入ってきたとします。

1番目のお客様はラーメンを頼んで

2番目のお客様がチャーハンを頼んで

3番目のお客様は焼きそばを頼んで

4番目の客様がラーメンを頼んだとしましょう。

この時2番目のお客様と3番目のお客様を抜かして、4番目のお客様のラーメンを1番目のお客様と一緒に作って出す時があります。

すると2番目と3番目のお客様は自分たちが先に入ってきたのに、4番目のラーメンが目の前を運ばれていくのを見ることになります。

お店としてはチャーハンと焼きそばを後にして、2杯分のラーメンを作ったほうが**効率的**ですが、**このような店は不誠実です。**

不誠実なお店は繁盛店になりにくいと思います。

なぜなら、お客様の都合ではなく、自分の都合で商売をしているからです。

一方、流行っているお店はどんなに面倒でも順番通りに出します。

そのような商売をやってる人を誠実といいます。

誠実な商売をやっているお店は流行り続けますが、不誠実なお店をはやらなくなっていくというのが宇宙の法則のようです。

効率や利益を優先させてしまって、お客さまに対する感謝の気持ちをなおざりにしてしまっ
ては、元も子もありませんね。

7月、8月が来るのが嫌だという話をされた方がいました。

夏は、サロンにとって、繁忙期、稼ぎ時です。

めちゃくちゃ忙しくて、お客さまもそこに集中するそうです。

私はその人に尋ねました。

では、あなたは夏は、お客さまが来ないこと、予約がこないことを望んでいるんです
ね？

その方はしばらく考えてから答えました。「いえ、夏に仕事が来なくなると困ります。」

仕事が忙しくて嫌になってしまいます。という言葉が宇宙に向かって言っていると、神様
はそれを聞いて「忙しくないのが好きだったら、忙しくないようにしてあげます」と答え
の通りして下さるようです

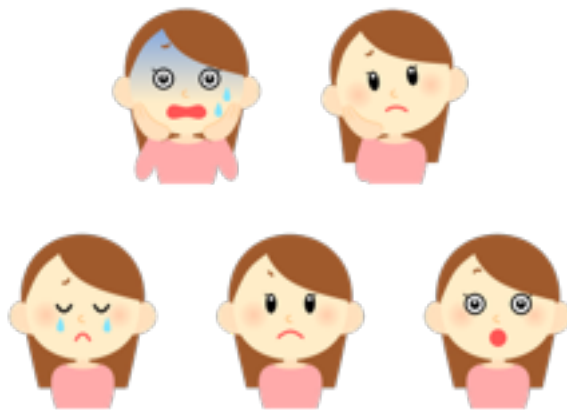
ある時期にたくさんお客さまが来てくださって、売上もあって、楽しくやっていたのに、

いつの間にか仕事がなくなって、お客さまが減り、売上げが上がらなくなったという人
にはある共通項があります

それは、忙しい時に不平不満や泣き言をさんざん言っていたということです。

神様はその不平不満や泣き言を全て聞いていて、「あなたは忙しくないことに望んでいる
のですね。わかりました」といって、仕事も売上げもお客さまもすべて取り上げてしま
うようです。

だから、忙しいことがどれほど嬉しくて、楽しくて、ありがたいことか。ということ
きちんと理解した上で、誠実に仕事したほうがよさそうです



- お金は人の役に立つように使うと4倍以上になって返ってくる

お金が入ってきたときに、自分の物質的な満足を満たすためだけの観点でお金を使う人のところにはどうもお金が集まりにくいみたいです。

お金が1番嫌がる使われ方はギャンブルだそうです。

2つ目は贅沢、華美に使うこと。自分の事だけに使われる事をお金は嫌います。

3つ目は貯め込まれることだそうです。

お金自身は役に立ちたい、喜ばれたいと思っているようです。

お金と水は流さないと腐ります。ですから、お金の流れを留まらせてはいけません。

「お金は、貯まってから使いましょう」と言う人がいますが順番が逆です。

先に喜ばれることに使うことによって、初めてお金が入ってきて流れが良くなるようです。

● お釈迦様の托鉢のお話

2500年前にお釈迦様が托鉢を思いつきました。

そして弟子達に、こういったそうです。明日から托鉢と言うものをやりたいと思う。托鉢では貧しい人々の家を回りなさい

弟子たちは驚いて、どうして金持ちではなく貧しい人々なのかその説明を求めると

お釈迦様はこう言ったそうです。

貧しい人々は自分が貧しいと思い続けて、他人に施しをしてこなかった人たちです。

他人に施しをすることで救われるのだから、救いに行つてあげなさい。

そのための托鉢です。と答えたといいます

自分に財力がないから施しができないと思っている人は、施しをしてこなかったゆえに徳が入ってこなかったのでしょう

自分が置かれている状況よりももっと困っている人がいるかもしれない、だから少しでも役立ててほしいと思ってお金を使うと、

それを見守っている神様はどうやら4倍以上にして返してくれるみたいです。

金額の大きさ多さではなく、その人にとって出せる金額ということが大切なようです。

よく、海外国内に限らず、寄付や援助をしているお金持ち、そうでない人達があります。

個人で何億ものお金を寄付している人もいます。お金の多さではありませんが、

私達も、出来る限りでいいので、社会に貢献をする、困っている人達に手を差し伸べる。

そういう、そういう気持ちと行動が大切なんだと思います。

コンビニのレジの前にある募金箱でかまわないので、そういうものを利用させていただくことも良いのかも知れませんね。



● 幸せは「もの」ではなく、幸せと思う「心」が決める

幸せを与えてくれるもの、人に幸せを与えてくれると思われるものは大きく3つに分けられます

1つ目は物、金銭的なものを含めた物質的なもの

2つ目は状況や環境、肩書や地位などです

3つ目は心です。心というのは、「～と思う心」のことです

世の中は常に物質的・金銭的な欲望があり、それは際限がないということを知る心、つまり充足する、満足するという心を持っていない限り、幸せになるどころか、ますます不幸、あるいは悩みや苦しみを生むことになるでしょう。

ですから、ここで「心」というものが非常に大切になってきます。

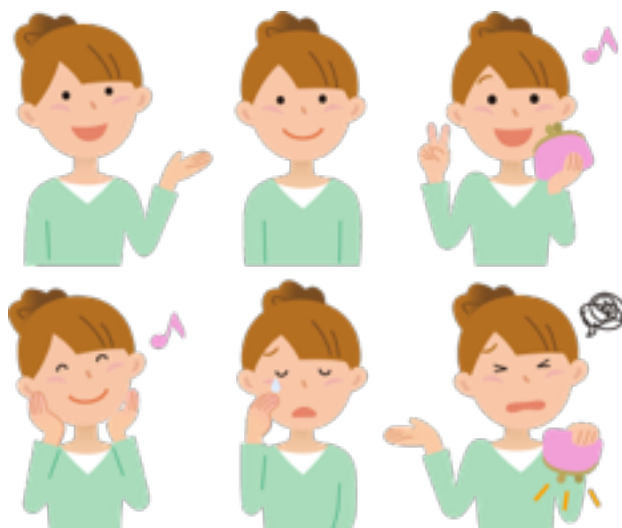
幸せとを感じるのも、不幸とを感じるのも、「心」です。

ものや金銭が全くなくても、

あるいは状況や環境が他人から見てひどいものであっても、

幸せと思う「心」があればその人にとって幸せはゆるぎないものになります。

幸せは外的なもの、で決まるものではなく、心の問題として決まってくるのです。



- 喜ばれるために使われることそれがお金の役割

人間には3つ目の本能があると考えてください。それは喜ばれると嬉しいという本能です。

多くの方がそうでしょう。自分のしたことが人に喜ばれると嬉しい、ありがとうと感謝されるともっとしたくなります。

お金ももちろん喜ばれるために存在しています。喜ばれると嬉しいのです。

お金も喜ばれるように使ってもらいと喜ばれる方へ集まっていくようです。
ですから、喜ばれるお金の使い方をすれば、その人には、もっともっとお金は集まって
くるということです。

お金をいかに喜ばれるように使うかという事は、お金の問題も含めて、いかに自分が喜
ばれる存在になるかということに他なりません。

自分が喜びたいかだけを考えていると、お金はちっとも入ってきません。

人も集まって来ません。

誰かに感謝されることもありません。それが宇宙の原理原則なのです。

人の役に立つようにお金を使うというのは、いかに、人に喜んでもらえるか？というあなた自身の在り方のようなものでもあります。



● 正しい経営 より楽しい経営

どうしたら売り上げ上がるか？

どうしたら利益をあげられるか？

サロンオーナーさんは、まずそう考えます。

お客さまが減って売上が減ったのなら、コストを削減しなければいけない。

人件費を切り詰めたり、借金返済の計画を見直したり、サロン経営には、いろいろ見直しや改善の方法があるでしょう。

けれども、正しい経営、正しい方法ばかりを考えると、見えなくなってしまうものがあるような気がします。

それは、楽しい経営です。

北海道旭川市の旭山動物園はもう少しで廃園に追い込まれるところだったのに、奇跡の復活をとげ今では全国でも人気ナンバーワンの動物園となりました。

旭山動物園では、お客様に喜んでもらえるアイデア、その動物の良さを伝えるアイデアをたくさん考えました。

そのアイデアを実現していく過程は動物園のスタッフにとってとても楽しい時間だったのではないのでしょうか？

そしてその、楽しい形が結果的にお客さんを呼び、利益にも結びついたので。



このように

楽しい経営 = 正しい経営

なのかもしれません

● 働くとは、はた（傍）を楽にすること

「働く」というと、普通はお金を稼ぐため、生計を立てるため、と思うでしょう。

あるいは、自己実現のためという人もいるかもしれません。

けれど、「働く」の本質は、はた（傍）を楽にすることです。

はた（傍）とは、そばにいる人達のことです。つまり、家族やお客さま、関わる人達みんなのことです。

自分の体を使って、汗を流して周りを楽しむことです。自分のため、自分のためだけに働いているという人は、働くことの本質から少しずれているのかもしれません。

もう一つ、「仕事」という言葉もあります。

これもお金を得るため、と考える人がほとんどでしょう。

ですが、「仕事」この漢字をみれば、「事（こと）に仕える」となっています。

事（こと）に、お仕えするのが仕事、どんなことにお仕えするのか？といえ、

喜ばれる事、はたを楽にすること。

これこそ仕事の本質です。

人に喜ばれるようになってみると、人のためとっていたことが、

実は自分が一番嬉しい、自分のためになっているということがわかります。



- 謙虚とは控えめなことではなく、おかげさまと感謝できること

一般的に私たちは偉そうな態度とって人を傲慢で嫌な奴だと思い、

控えめな感じの人、この人は謙虚でいい人と思います。

これは神様にも言えることで、神様も謙虚な人を好み、傲慢な人はあまり好まないようです。

けれども、この場合の謙虚と傲慢とは、人間社会での意味合いと少しだけ違うようです。



神様が好意を持つ謙虚とは、自分の置かれている状況や獲得したものは自分の力によるものではなく、多くの友人や知人目に見えない存在の影だと思っていることです。

反対に、自分が獲得したものは全て自分の力や才能や努力によるものと思っている人を傲慢というようです。

一般的に偉そうな態度をしているとか、控えめな態度をしているとか、そういう面に出てくる態度の問題ではなく、

基本的に、自分の常識なり、生き方をどのように自分自身で考えているか？

内面の部分が、謙虚さと傲慢さの分かれ目になります。

● い・ど・お・の法則

謙虚さとは3つの方法で表現できるようです。

1つ目は思いの分野で、「威張らない」「怒鳴らない」「怒らない」

2つ目の分野として言葉の部分「ありがとう」と言い続けこと

3つめの分野として、行動の部分で「トイレ掃除」をすること

この3つが全てできているとき、謙虚な人と言えそうです。

人間は、自分が正しい、相手が間違っている、自分がよくできる、よくわかっていると思う時、相手はダメだ、わかっていない、と思う時に、威張ったり、怒鳴ったり、怒ったりします。

自分が正しいと思っていると、正しくない人への怒りが湧いてくる。

自分が間違っているかもしれないと思えば、攻撃的な気持ちが湧いてきません。

でも、ほんとに自分が正しくて相手が間違っているかなんてわかりません。

わからないという謙虚な気持ちがあれば、何の迷いもなく相手を攻撃することができません。

自分が絶対に正しいと思うのは傲慢でしょう。

自分の価値観や美意識を持つのはいいのです。

私がこういうことが良いことだと思う。

こういうことが美しいと思う。

と信じ、そういう生き方をする、自分がどう生きるかを自分に生かして生きていくのは謙虚。

だけれども、

他人の生き方について、自分の価値観を押し付けるのは傲慢になってしまいます。

● まとめ

「お金の神様に可愛がられる女性経営者になる方法」いかがでしたでしょうか？

わたしも、このお話をはじめて聞いた頃は、経営者として、とても苦しんでいたときでした。

当時の私のコーチに、「門馬さんって、感謝が足りないね」といわれた事があります。

面と向かって（その時は電話でしたが・・・）そういわれたんです。

ビックリしたやら、怒りとか、焦りとか、いろんな感情になった記憶があります。

そして、そのコーチから、こういう人がいるから、ぜひ、この人の本を読んでもらうと良いよ。とオススメされたのが、

私の師匠との、出会いのきっかけでした。

当時は、まだ、書店に本はなく、限定版の本しかなかったので、ネットで調べて、読んでみました。

そうしたら・・・・・・・・

まさに、私のことが書いてあったんです。

講演会をしているということを知って、直接、話を聞きたくて、一番最初は、新潟の十日町というところまで、講演会へ出かけて行きました。

はじめて、聞いた師匠の話に、まさに、

目からウロコ・・・

目から、なみだが溢れてきました

自分で、自分を苦しめていた・・・

自分自身を信じていなかった・・・

師匠からは、ものの見方を学びました。

見方道というものを、学ばせて頂いています。

きっと、このレのレポートが、あなたのお役に立つ事を心より祈っています

お金の神様に可愛がられる女性経営者になる方法

いかがでしたでしょうか？

あなたのお役に立てて頂ければと思います。

無料電話個別相談をプレゼントさせていただきます。

最後にこの無料レポートをお読みいただいたサロンオーナーさんへ、特別なプレゼントをご用意させていただきました。

この機会にサロンでの問題点やお困りのことなどございましたらご利用ください。

無料相談は、こちらのフォームからお申し込みいただけます。

<https://goo.gl/7hmFmx>



スマホの場合は、qrコードからアクセスして頂けます。

有限会社スタイルプロデュース
門馬俊光

門馬俊光プロフィール

会社経営、サロン経営コンサルタント、美容師。

1968年福島県生まれ。美容学校卒業後、数店舗の美容室に勤務後、24歳で独立開業。3店舗までサロンを増やすが、スタッフの大量退店などで、自身の経営者としてのコミュニケーションの問題に気づき、コーチングを学ぶ。その後、サロンを立て直し福島市と仙台に美容室、ネイルサロン、ネイルスクールを経営。その実践的な方法などで、全国のネイルサロンを中心として、サロン経営者向けのコンサルティングを提供。全国で1200人のサロン経営者に、サロン経営をサポートしている。



師匠 故小林正観氏と伊勢神宮にて 2008年7月吉日

<参考文献>

楽しく上手にお金とつきあう ～一生 お金に困らない人とは～

お金と仕事の宇宙構造 ～長者さま養成講座～

宇宙法則で楽に楽しく生きる

で、何が問題なんですか ～小林正観 質疑応答集～

100%幸せな1%の人々

ありがとうの奇跡

ありがとうとお金の法則

著者 小林正観